

令和7年度 第2回 学校運営協議会報告

門川町立門川小学校

- 1 日 時 令和7年12月1日(月)
- 2 出席者 委員8名、地域学校協働活動本部推進員2名、
職員17名、町教委1名 …… 計28名



3 内 容

- (1) あいさつ【会長・校長】
- (2) 下校指導参観(1～4年)+授業参観(5・6年)
※ 5・6年教室はフリー参観
- (3) 学校評価、「みやぎきの教育に関する調査(地域の皆様向け調査)」【教頭】
※ 学校評価……1月に依頼
- (4) 教職員と学校運営協議会委員との意見交換【司会:岩田、記録:教頭】

- ① 下校指導参観+授業参観の振り返り【班別】
- ② オープンスクールの振り返り <9月19日(金)>【班別】

- 1年…昔の遊びを楽しもう(支援:高齢者クラブ)
- 2年…手話を学ぼう～手話体験～(支援:門川町社会福祉協議会の手話サークル)
- 3年…算数「重さ」(支援:算数科授業支援員)
- 4年…防災マップ作り(支援:区長、民生委員児童委員、保護者)
- 5年…福祉ってなんだろう?(支援:門川町社会福祉協議会)
- 6年…ミシンで楽しくソーイング(支援:民生委員児童委員、ミシンボランティア)



- ③ 全体での共有【班別】 ※ 各班の司会者

- ・昔は1年生と6年生が近い関係だったが…。高学年が手本を示してほしい。
- ・3年生以上は教室がきつそう。児童のパーソナルスペースがとれるとよい。
- ・教室を出てウロウロする子がいた。安全面からも時には厳しく指導することも必要では。
- ・大人を見て態度を変える子供たちが増えてきているような気がする。
- ・特性のある子供たちが、他の児童をよくない方向へ。特性にあった役割を与えることも必要では。
- ・6年生も少しずつ落ち着きが出てきた。
- ・学習を頑張っている児童が多かったが、課題を終えた後の待ち時間に学習態度が乱れていた。
- ・低学年から、コツコツと基本的な学習習慣を積み重ねていくことが大切。
- ・清掃をきちんとしていない児童数名を指導したが、反省の様子が見られない。
- ・下校指導の時に、連絡事項をモニターに写し、可視化させて分かりやすく説明していた。
- ・帰りの会が児童主体で行われていてよかった。集中できない児童には担任の指導も必要である。
- ・保護者にも、今日学校でやるべきことはやったのか、確認をしてほしい。
- ・オープンスクールは、たくさんの地域の方々との交流ができてとてもよかった。



- (5) 令和5～7年度までの年次計画の進捗状況と本年度第1回学校運営協議会の協議内容の実施状況

- ① 班別協議・熟議 ※ 誰が、何を行ったか(誰が、何をこれから行うか)

◆ 防災教育(危険回避能力の育成)班【司会:岩田、記録:黒木(美)】

- 防災会議 8月20日(水)
 - ・町地区会長会にて、作成した防災マップのコピーを各地区会長に校長が配付。
- 宮崎県立門川高等学校との連携
- 各地区会長に、参加協力していただけそうな企業へ1社以上の呼びかけ依頼 他



- ・地域の取組としては段階的には進んでいる。今年度は、防災会議(図上訓練)に保育園や幼稚園職員も入ってくれたので一歩前進した。地域の取組には、地域差がある。
- ・子どもたちの防災に対する意識は高まっている。また、どこに逃げればよいか理解している児童

が多いように感じる。継続が大切。

- ・高台に避難する際に、体力的に一度で避難するのは大変。だから、一番近い高いところに一度避難し、そこから2段階で別の場所に避難する方がいいのではないか。
- ・避難後、どのタイミングで家に戻っていいのかの判断が迷う。自分の判断で帰っていいものか。

◆ あいさつ(コミュニケーション力の育成)【司会:本田、記録:山田(倫)】

- 第2回親子であいさつ登校 10月19日(日)の運動会当日の朝
- あいさつ標語募集(児童や家庭、地域対象) 他

- ・アンケートに、「あいさつが返って来ずに残念」等の意見があるが、「あいさつが返って来なくても当たり前」の気持ちが前提。数回の取組で変わるものではないし、大人の意識改革も必要。
- ・あいさつする子、しない子の2極化。4月からするとよくなってきているのでは。
- ・標語を作ることにより、あいさつをもっと身近に感じてほしい。入選作を選んで掲示したい。
- ・地域の方からも募集したい。回覧板等でQRコード等を活用するといいいのでは。



② 全体での協議

- Q 下校時避難訓練に、もっと企業や事業所に参加してもらえるような手立てはないか。
- ⇒ 過去には、学校運営協議会委員がちらしを持ってお願いに行ったことはある。
 - ⇒ 表立って参加宣言はしていないが、M組など事務所近くの交差点に立って協力してくれている企業等もある。消防団員が多く参加しているのも、企業等の協力によるもの。
 - ⇒ 今年は、商工会に訓練のちらしを20枚持っていき、配付のお願いをした。

(6) 町内小中学校一斉下校時避難訓練【防災教育主任:鈴木葵】

- ① 説明、質疑 …… 今年度は、「集団下校」ではなく「通常の個別下校」で実施
- ② 地域団体やPTA(学校の負担大にならない運営)

(7) 令和8年度から令和10年度までの年次計画の発案【司会:中島教頭、記録:山田(敬)】

① 班別協議・熟議

- 3年間の計画(防災教育+1)

【時間がなく校長より提案のみ】

ア 「防災教育」は、町全体の課題でもあるため今後も継続する。

イ 「あいさつ」は、今の内容を無理なく継続していくことが重要であり、次年度以降は協議等を行わずに継続する。

ウ 新規に「地域人材の活用」に取り組んではどうか。

- ⇒ 地域との連携推進
- ⇒ オープンスクールの充実
- ⇒ 働き方改革の推進(具体化)

協議の柱(テーマ)		【課題】 地域人材の活用(学校運営の円滑化と地域交流機会の増加)		校長私案 (R7.12.1)
年 度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	
ゴールイメージ(目的)	【学校】 授業や日常活動等に地域人材を積極的に活用することで、学校運営が円滑になるとともに、児童と地域の人々が交流する機会が増える。			
	【地域】 学校との接点を多く見付け、積極的に児童と関わることで、やり甲斐や生き甲斐を感じる。			
学校	目指す子どもの姿(目標)	地域人材を活用した授業で、生き生きと学んでいる。 <肯定回答◆◆%以上>	日常の活動(休み時間、給食・清掃等)が落ち着いている。 <肯定回答◆◆%以上>	落ち着いた学習活動や日常生活ができています。 <肯定回答◆◆%以上>
	学校としての協働活動			■地域サポーターの設置 ■不登校傾向児童への地域支援
地域	目指す地域の姿(目標)	多くの人々が学校の授業に協力し、やり甲斐や生き甲斐を感じている。 <肯定回答◆◆%以上>	多くの人々が学校の日常の活動(休み時間、給食・清掃等)に協力し、やり甲斐や生き甲斐を感じている。 <肯定回答◆◆%以上>	自ら学校との接点を見付け、やり甲斐や生き甲斐を感じるとともに、児童との交流を楽しんでいる。 <肯定回答◆◆%以上>
	地域としての協働活動			■地域サポーターの設置 ■不登校傾向児童への地域支援

② 全体協議・熟議

- ・1学期の拡大学校運営協議会でも、「地域が・地域で・地域と育てる…」というようなテーマがよいのではという協議をしたので、提案どおりでよい。

(8) 門川町教育委員会より

(9) その他【校長:中田】

① 門川町善行児童の表彰候補者推薦

- ・地域で活躍している児童がいれば教えてほしい。

② 門川小学校の生徒指導の状況(特に5・6年生)

- ・5年生が落ち着かなくなっている。⇒12月4日(木)の参観日に「学年懇談会」を実施

(10) 閉会